

三礼(サンライ)

イツサイクギョウ
一切恭敬

ジキエパー
自帰依仏(起)

トウガンエンジョウ
当願衆生(起)

ジキエホウ
自帰依法(起)

トウガンエンジョウ
当願衆生(起)

ジキエソウ
自帰依僧(起)

トウガンエンジョウ
当願衆生(起)

念珠香呂ヲ置イテ衣文ヲ繕イ終ワツテ珠呂ヲ取り中唄ヲ

唱ウ

ニヨライメツキン
如来妙色身(起)

セケンムヨトウ
世間無与等

ニヨライキムジン
如来色無尽

イツサイホウジョウ
一切法常住(起)

げんだい い
現代を生きる基準として

まことの道
みち

かんのいんごほんぞん
観音院御本尊

げんだい い
現代を生きる基準として
まことの道
みち

まことの道
みち
目次
もくじ

ぎょうほうらいはつ
行法礼拝と略式作法
りやうしきさほう

まごとの道^{みち}.....12

合唱礼拝^{がうしょうらいはい}.....13

開経偈^{かいきょうげ}.....

.....15

懺悔^{ざんげ}.....

.....15

十善戒^{じゅうぜんかい}.....

.....27

朝の言葉^{あさのことば}

月曜日^{げつようび}.....

.....41

火曜日^{かようび}.....

.....45

水曜日^{すいようび}.....

.....48

木曜日^{もくようび}.....

.....50

金曜日^{きんようび}.....

.....52

土曜日 54

日曜日 56

前讚・四智梵語 59

前讚・心略梵語 60

前讚・不動梵語 60

理趣經 61

後讚・四智梵語 88

後讚・心略漢語 88

後讚・仏讚 89

至心廻向 90

舍利礼 91

般若心経と観音経 91

廻え 向こ
向う

.....
125

まことの道みちについて.....

観音院かんのんいん故事来歴こじらいれき.....

あとがき.....

まことの道みち

行法ぎょうぼう礼拝らいはいの略作法りやくさほう

礼拝らいはいと日常生活にちじょうせいかつ

着ちやく 座ざ
観かん 想そう

仏前ぶつぜんに座すわるときは背筋せすじをのぼして正座せいざし、呼吸こきゅうを整ととのえて、
わたくしは浄土じょうどの中心ちゅうしんに在あると思おもいましょう。

礼拝時らいはいじは、正座せいざまたは、右みぎの足先あしさきを左膝ひだりひざのうえにおきま

す(半跏座)。正座の習慣が無い人は無理をしないように、座布団を二つに折って腰の下に敷くか、椅子に腰かけるようにしてください。

弁供

ご仏前が清く正しく美しく荘厳されているか今一度確認します。

花や燈明、線香などを丁寧におあげします。一對でない

場合は燈明は仏さまの左手の方、花は仏さまの右手の方に

お供えます。

燈明と線香は礼拝の直前に上げ、行法が終わりましたら、

確実に火を消しましょう。来客や電話などでやむなく中座

する時も、燈明と線香は必ず消します。

着座普礼 念珠をすりながら、普礼の真言一遍

オン サラバ タタギヤタ
普礼 (帰命) (一切) (如来の)

ハンナ

マンナノウ

(み足を)

(礼をすることを)

キャロミ

(われがなす)

***真言は暗記してください。印を結び、真言をとなえる**

ことについては詳しくは僧侶の指導によってください。

一切の御仏を心から礼拝します。

み仏さまにおすがりし、一心に礼拝したてまつる。

威儀 衣紋繕い

法衣であれば左袖を直し、次いで右袖を直し、袈裟を腰

の下に敷かないように正します。

スーツなどであれば襟元、袖先、ボタンなどに気を付けてきちんとしてします。

塗香 塗香を指でつまみ、手腕に塗り淨めます。

護身法 護身法の深い意味については

僧侶の指導を受けてください。

・護身法は如法衣(袈裟)を着けているときに限り、左手にかかっている袈裟の布を引いて、両手を覆って印を結誦します。

・袈裟が無いときは護身法を頭に浮かべ真言をとなえます。
・護身法はお経や仕事をする前に行じれば、み仏の守護をいただくことができます。

浄三業 蓮華合掌 真言五遍 五処を印ず

オソ ソワハンバ シユダ
(帰命) (自性) (清浄である)

サラバ タマラ ソワハンバ
(一切) (法) (自性)

シユド カン
(清浄である) (我の意味)

みずか 自らの悪しき事を断ち、
あ こじ 浄き心となるよう念じます。
きま こころ ねん

良い態度よいたいどと真実しんじつの言葉ことばとあたたかい心こころをもちて、

一切いっさいの悪あくを断ち、善よき人柄ひとがらの人ひととなる。

仏部ぶつぶ 真言一遍しんごんいっぺん

オン

タタギヤタ

ドハンバ

仏部ぶつぶ

(帰命)

(如来の)

(発生する)

ヤ

ソワカ

(ため) (成就する)

仏部ぶつぶの諸尊しよそん、私わたしを加持かじして態度たいどが清浄せいじようなるように導みちびか

れ、罪障ざいしょうを消滅しょうめつして福恵増長ふくえぞうちうめつすることを願ねがいます。

み仏ぼつの慈悲じひにより、浄きよき人ひととなり、罪障ざいしょうを消滅しょうめつし

て、福恵増長ふくえぞうちうめつす。

蓮華部れんげぶ 八葉印はちよういん

オン

ハンドボ

ドハンバ

蓮華部れんげぶ

(帰命)

(蓮華)

(発生する)

ヤ

ソワカ

(ため) (成就する)

観自在菩薩および蓮華部の御仏、私を加持して、言葉

が清浄なるように導かれ、言葉は浄まりて、人々が聞

きたいと願うように真実を語り、御仏の法を説くこと

が自在になるように願います。

み仏の慈悲によりて、真実の言葉を語り、人々を

浄めて、自らも浄き人となる。

金剛部

オン

バゾロ

ドハンバ

金剛部

(帰命)

(金剛を)

(発生する)

ヤ ソワカ

(ために) (成就の意味)

金剛蔵菩薩ならびに金剛部の御仏、私を加持して、思

いが清浄なるように導き、菩提心を証して三昧現前し

て速やかに解脱することを願います。

み仏の慈悲によりて、あたたかき心となり、み仏

の教えに入り、浄き世界の内にあり。

被甲 真言五遍 五処を印ず

被甲

オン バザラ

(帰命) (金剛智慧の意味)

ギニ ハラチハタヤ

(火) (きわめて威光あること)

ソワカ

(成就の意味)

如来の大慈大悲の強き力を受けて、一切の悪しきもの

にさまたげられず、私は太陽の如き威光に守護されて

見るものすべてに慈悲心を起こさせ障害となることは

できず、悪しき人は近付くこともなくなり、煩惱業障

から離れて、諸々の苦しみから脱れ、無上の正等菩提

を證ずることを願います。

み仏の慈悲に守られて、不安のない日々を送る力

を得たり。

まことの道

真言の道は遠からず、わが足もとを始めとし、

わが目の前にあるものを、わが心に霧をかけ、

思い悩んで見失う。

それ幸いは遙かにあらず、心中にして即ち近

し、身を捨てて何れに求める、あわれなるか

な迷えるものよ、ながき眠りの目を覚まし、

まことの道を歩み出せ。

光も暗も心から、身をつつしみて十善の教

え奉じ歩み行く、この姿こそ幸いなり。われ

ら讃えん天地のまことは法のみおやなり。

合掌礼拝

われらいま受け難き人として生まれ、有り難

きみ教えにあうことを得たり。恭しくみ仏を

礼拝したてまつる。

願わくは世の人々と共に、まことの道をふ

みしめて、幸多き世の中を創り、幸いなる人
とならん。

み法は深く妙にして広く明るく輝けり、われ

願わくは世の人々と共に持ちえて、大いなる

海の如き悟りを得ん。

われ浄き人々と交わり、共にまことのみ法を

伝え、み教えのままに世の中を浄めて、樂し

み多く、富みさかえん。

開 經 偈

無上甚深(付)微妙法 百千万劫難遭遇

我今見聞得受持 願解如来真实義

懺 悔

それ世の人々の苦しみを見るに、自らなせる

悪しき行いの報いにあらざるなし、付あくこと

なき貪りの心、抑え難き怒り、まことの判断

を忘れる愚痴、この誤れる欲望によって身と

口と意とのうえに、量り難き大くの過ちを犯す。

われら懺悔す、財産を増さんとして手段を選

ばず、多くの人に怨まれて、しかも施すに惜

しみ多し。あきらかに奪い、あるいは密かに

盗る他人の財、富みたる人に寄り、貧しきも

のを避ける。

善き人に従わずして痴かなるものを友とし、

うわべよき人を慕いて、その人の心を見ず。

勝れたる人を嫉妬し、劣れる人を卑すんで満

足する。

ことさらに殺し、誤まつて殺す有情の命。価値あるものを損いて、汗して創る努めをなさず。

自ら欲望のおもむくままに狂いあがりて行動し、人を誑かし、わが心いつわり、まこと道遠く空しく日を過ごす。心にまかせて身を持ちくずし、善き種を蒔かず、怠りて励むことなく、遊び戯れて空しき言葉をつぶやき、みほとけの厭いたまうところを慙せず、いたずらに年を送る。

ああ、われいま古き昔より造り重ねし多くの悪しき営みを尽く懺悔す、悪と知りつつ犯したる罪、悪と知らずに犯したる罪、そのすべてを包みかくすことなく、一切を照覽したまうみほとけに皆懺悔す。

犯すところの是の如き多くの罪、願わくはみ
ほとけの慈悲をたれたまい 尽く消え去らんこ
とを。

われこれよりのち、決して悪をなさず、ひた
すら善きつとめに励み、まことの道を歩むこ
とを誓うものなり。

懺悔文

我昔所造(付)諸悪業 皆由無始貪瞋痴

従身語意之所生 一切我今皆懺悔

三 帰

弟子某甲 尽未来際

帰依仏 帰依法 帰依僧

三 さん き よ う
竟

弟子某甲 尽未来際

歸依仏竟 歸依法竟 歸依僧竟

十善戒

弟子某甲 尽未来際 不殺生 不偷盜

不邪淫 不妄語 不綺語 不惡口

不兩舌 不慳貪 不瞋恚 不邪見

※十善戒については27ページから詳しく説かれています。

發菩提心

おん ぼうじ した ぼだはだやみ

三昧耶戒

おん さんまや さとばん

十三仏真言

不動明王

のうまく さまんだ ばざらだん せんだ
まかろしやだ そわたや うんたらた かんまん

釈迦如来

のうまく さまんだ ぼだなん ばく

文殊菩薩

おん あらはしやのう

普賢菩薩

おん さんまや さとばん

地藏菩薩

おん かかかび さんまえい そわか

弥勒菩薩

おん まいたれいや そわか

薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

観音菩薩

おん あろりきや そわか

勢至菩薩

おん さんざんさく そわか

阿弥陀如来

おん あみりた ていぜい からうん

阿閼如来

おん あきしゆびや うん

大日如来
だい にち に よらい

おん あびらうんけん ばざら だと ばん

虚空蔵菩薩
こくうぞうぼさつ

のうぼう あきやしや きやらばや おん

ありきや まりぼり そわか

光明真言
こうみょうしんげん

おん あぼきや べいろしやのう まかぼだら

まに はんどま じんばら はらばりたや うん

もし体の具合の悪いときは寝たままでも結構ですから、

光明真言の「おん」の一字だけでも心の中でおとなえくだ

さい。この経典を読んだことのある人はそれだけでみ仏さ

まの慈悲をいただくことができます。

火の用心
ひ ようしん

燈明、線香は礼拝が終わり、あるいは中座するときは、

必ず消しましょう。電話や来客で中座して話に夢中になり、

仏壇の火の不始末で家を焼いたという例があります。

立派りっぱなお寺てらが壇信徒だんしんとさまのお供えそなになつた燈明とうみょうや線香せんこうの

火ひの不始末ふしまつで消失しょうじつしたということも少なくありません。仏ほとけ

さまの前まえを離れるはなるときは必ず火ひを消けしてください。

観音院かんのいんの日常にちじょうは燈明とうみょうを一日中いちにちじゅうともしていますが、本堂控ほんどうひかえ

室しつに必ず人ひとがいて、さらに防火装置ぼうかそうち、自動消火装置じどうしょうかそうち、テレ

ビモニタなどが設置せっちしてあります。壇だんはみかげ石いしで造つて

あり、失火しつかすることはまず無ないように工夫くふうしてあります。

それでも人ひとがいない時は燈明とうみょう、線香せんこうの火ひは消けすようにして
います。

ご自宅じたくにおいて、み仏ほとけを礼拝らいはいして、不注意ふちゆういで火事かじになる

ことが決けつしてないよう十分注意じゅうぶんちゅういしてください。

まことの道みち 十じゅう 善ぜん 戒かい

われら生きとし生けるものを羽包はくみ育てそだてるみ

ほとけの光めぐみは博ひろく隔へだてなし。すべてに勝まさりす

ぐれたる、世を照らしますみほとけは眞実の
世界に在りまして、救いのみ手をたれたまう。
苦しみ悩む人たちよ、いと勝れたるあこがれ
の幸いの眞理ここにあり。十善の戒を遂げぬ
れば、みほとけの胸にいだかれて、楽しみあ
りて富みさかえん。

道を求める人たちよ、忿りの愛の力もち、す
べての人を淨むべし。

さればみほとけは説きませり。われらみほと
けの光み身にうけて、永久のわぎ今なさん。

一つには不殺生 生きとし生けるもの、あり
とあらゆるものはみほとけなり。生けるも

のに限りなき慈愛の心もちて、その生命を害
することなく、そのなりわいを扶け行かん。

あらゆるものの、その価値を付け加うるに励

み行き、かりそめにもその生命を傷うことな
く、その働きを助けん。

二つには不偷盗 すべてのはみほとけの
心のままに在りませり。分を越えて望み、

働かずして施しを受け、人の心を迷わしむ、
深くみほとけの苦悩したまうところなり。遊

び戯れて月日を過ごす、人あり、なすべきこ
とありて生命を受ける、なすべきをなさざる

は最大の盗みなり。すべてのものを盗まず、
すべてのものをみほとけの心のままにところ

を得さしめん。
三つには不邪淫 夫婦は幸の始めなり。愛な

き交わりは淫らなり、自ら創らずして与えら
れし愛は愛にあらずして淫らなり。相扶け努

めずして得た幸いは幸いにあらずして淫らな

り、かりそめの愛は幸にあらず、愛は平等し

く永遠に続くものなり。

愛しの言葉うけるとき、ほとけのみ法とわれ

受けん。愛しのめぐみうけるとき、ほとけの

愛とわれうけん。すべてのめぐみうけるとき、

われみほとけの身になつて、永久のわざなし

行かん。

四つには不妄語 言葉は心なり、よき心はほ

とけなり。言葉は未来を創る。悪しき心は人

を悲しませ、悲しき将来となる。善き心は真

実の言葉となりて人を喜ばせ信頼を得る。

古きことを語るな、古きを語れば人を傷つけ

自らも傷つく。将来を語るな、明日をも知

れぬわが身なれば、知らずして人を欺くこと

となる。

約束に違ふことなかれ、約束をなすは人のし

るし。常に真実の言葉を語り、われみほとけの身とならん。

五つには不綺語 身を綺り、家を綺り、生業を綺りたる言葉を語らず。力なきを力あるが

如く語るは人を迷わしめる。常に真実の自らについて語り、自らを偽るまじ。

六つには不悪口 言葉を凶器として用い、人を傷つけることなかれ、言葉は本来ほとけなり。高き声にて罵ること、悪しき言葉を使う

こと、悪しき話を広めること、みほとけの深く悲しまれる行ないなり。われ常にみほとけの心にて、悪しき人あれば救わずんば止まじの

決意にて、自らの意志を確実に伝えるよう努

力し、われみほとけの心広めん。

七つには不両舌 考え定まらずして語るな

かれ、人の機嫌を取らんとて心にもなき言葉
で媚びることなかれ、自らの利益を計つて人
を陥れるなかれ。

人の心と心を結ぶことは、みほとけの望みた
まうところにて、かりそめにも人の心を裂く
がごときをなさず、よき人々の交わりをつく
り行かん。

八つには不慳貪 汗して働くに惜しむなか
れ、人に与うべきものを惜しまず、与えるに
あたり、かりそめにも期待するなかれ、情あ
るものの心を悲しませるなかれ。

われ常に明るき心にて世の燈火とならん。
九つには不瞋恚 無為にたえうる人は力ある
人なり、辱められて憤ることなかれ、罵ら
れて悲しむなかれ、世の人々の心わが心にそ

わずともその人を怒り怨むことなかれ。

自ら正しかれば人を恨むこともなく、善き徳

を積む人は一切をみほとけが知りたまう。

十には不邪見 過ぎさりし日の積み重ねし

行いが今日のわが身であり、今日を勤めずし

て明日を考えることができず。善き行いあらば

必ず幸いを得ん、悪しき行いあらばその報

いを得ん。われ今日よりのち常にみほとけの

如きあたたかき心を持ちて世の光となり、世

の人々の幸いを願わん。願わくはみほとけの

めぐみをうけて、悪しき欲望を打ち破り、わ

れみほとけの身とならん。

この十善の道を歩み行くものは幸いなり、

そは真実の道なり、自らを真実に生かす行い

なり。十善の経を知ることば真実の自由を知

ることなり、そは幸さいわいを示しめしたまうみほとけへの
何なにものにもまして尊とうとい報恩感謝ほうおんかんしゃの励つとめなり。

われ常つねにこの十善じゅうぜんの教おしえを身みにつけて、心こころに
おもい、口くちによみ、あらゆる人ひとにこれを説とき、

自みずから写うつし、写うつさしめ、浄きよき世界せかいを創つくり行ゆき、

われみほとけの身みとならん。

さればみほとけは続つづいて説ときませり、迷まよえる

ものを導みちき、苦くるしむものあらば救すくわずば措おか

ず、世よの人々ひとびとを視みるに自みずからのこととして受うけ

とる慈愛じあいの持もち主ぬしは、心こころの耳みみおのずから開ひらけ、

衆生よのひとびともほとけも平等ひとしく仏性ぶつじょうを持もちたるこ

とを覚さるなり。われみほとけの心こころに従したがつて世よ

の人々ひとびとのすべてに幸さいわいをもたらさんと願ねがい、

あらゆる困難こんなんに打うち勝かつて、人々ひとびとを人々ひとびとの願ねが

いのままに幸さいわいにせしめ、人々ひとびとの心こころのなかに

みほとけを仰あおぎたてまつり、かくして世よの人ひと
々の心こころの奥おく深く秘ひめられし永とこ遠しえへの願ねがいを満まん
足ぞくせしめ、真まこと実まことなるものへのあこがれを満まん足ぞく
せしめ、世よの人ひと々と共ともにわれみほとけの身みと
ならんことを誓ちかうものなり。

朝あさの言葉ことば 一同合掌礼拝いちどうごうしょうらいはい

今日きょうわれら生きてあり、真まこと実まことの光ひかりに包つつまれて、
われら富とみ栄さかえ、幸さいわいなる人ひととならん。

月曜日「朝あさの言葉ことば」

大切たいせつにする。すべてすべてのものを、徹てつてい底ていして大たい切せつ
にする。

大たい切せつにすべきもの、人ひと生せいまれながらにして持じ
てるみほとけの心こころなり、知ち識し教きょう養やう技ぎ術じゆつにて
世よに処しよせんとするは限かぎりなき努べり力りよくの道みちなり。

生きとし生けるものを慈しみ、あたたかき

心で接するはみほとけの心にして、かかる人

を善き人柄の人とも、また菩薩の行ないをな

す人ともいうなり。大切にすべきものの第一

はこの善き人柄にして、人の持ち得る能力

のうちで最も力ある能力とされるものなり。

親にしては子に、子にしては親に、夫は妻

に、妻は夫に、あるいは世の人々に、われら

常に善き人柄の人として讃えられん。特にわ

れ優位の立場にあるとき、劣れる人に善き人

柄であることを誓うものなり。

大切にすべきものの第二は仕事なり、生まれ

きて汗して働かざるものは人にあらず、みほ

とけの強く厭いたまうところなり、分に応じ

て自らなすべきところに従いて働くは世を富

ましめ自らも幸いなる人とならん。仕事をな
すは奉仕の心が根本にて、人は報酬を得んが
ために働くにあらず、生けるしるしとして、
自らの向上を願いて働くなり。

大切にすべきものの第三は自らのある場所な
り。わが住む家を始めとし、その土地、仕事
なすべき職場、その社会なり。家を治めずし
て仕事を語るなかれ、打ち込むべき仕事を持
たずして社会人たる資格なし、世に尽くさず
して幸いを語るなかれ。

火曜日「朝の言葉」

与える。期待しないで与える。
人の一生はみほとけの恵み受けることにより
始まり、みほとけの心のままに生かされ、み
ほとけの救いを受けて往る。われみほとけの身

とならんと願うがゆえに、みほとけの如く与えん、与えるにみほとけの如く、かりそめにも期待するなかれ。

与える行ないの根本はあたたかき心なり。あたたかき心示すは最大の施しなり。期待せざる心は信頼の始まりなり。

与えるべきもののその一は人の在るべき場所なり。家にありては、しゅうと、しゅうとめ、

夫、妻、嫁、子、孫の場所。仕事にありては

仕入れ先、つくる人、売る人、考える人、買

う人、皆それぞれに居やすき場所を与えん。

あたたかき心はあたたかき環境を創り、よき

環境はみほとけのまします浄き社会と

なる。われら心から求めしところの浄土は死

して与えられるものにあらず、この身この生

において自らが創り、人を住ましめ、みほと
けの光うけて持ち往くものなり。

水曜日「朝の言葉」

言葉と態度で未来を創る

始めに真言あり、真言この世に顕れて人とな
る。真言はほとけなり、真言の道はみほとけ

の道なり。あたたかき言葉と善き態度は真言
の道なり。真言の道あゆみ行くものを人とい

う。悪しき言葉と態度の人は人にあらず。

あたたかき言葉はあたたかき人を創り、善き

態度は善き社会を創る。

言葉と態度は未来を創る。

淫らなる言葉を語るなかれ。淫らなる言葉は

淫らなる態度となり、淫らなる人を生む、み

ほとけのいたく厭いたまうところなり。

怠惰なる態度をとるなかれ、怠惰なる態度は
疲れたる言葉となり、貧しき家となる。

人を傷つける言葉は怒りたる態度となり、苦

しみ多き生涯となる。われら常に身と口と

意とのうえに、みほとけのわざ顕して、すべ

ての人を淨き土に導きゆかん。

木曜日「朝の言葉」

約束を守る。

真言のみほとけは、生きとし生けるものその

すべての苦しみを救いたまうまで、その苦し

みをわが心として涅槃に行くことなしと誓願

したまえり。約束はわれら生き行く根本なり。

約束は社会の始め、秩序の基なり。約束なく

して人なし、約束なくして救いなし、約束を

守らずして淨き土あらず。

われら約束ややくそくをなしたるうえは、この身みにかえても
守まもるべし。固かたく約束ややくそくを守まもるとき、安楽多たのしみおほ

く富とみ栄さかえん、われら幸さいわいなる人ひととならん。

金曜日「朝の言葉」

善意ぜんいに受うけ取とる。善意ぜんいに受うけ取とる人ひとになすべ

き仕事しごとと住すむ場所ばしょが与あたえられる。

人ひとすべて等ひとしくみほとけの心こころを持もてり、世

に悪あしき人ひとなし、人ひとの言葉ことばと行おこないは、善意ぜんいに受うけ

けとるとき、善意ぜんいの力ちからもちてその人ひとを浄きよめ行ゆく。

人ひとはすべて善よき人ひとと讃たたえられんと望のぞみ、善よき

人ひとと受うけ取とられるとき、善よき人ひとならんと努とど

力りよくす。人ひとの言葉ことばと行おこないに善意ぜんいを見出みいだすことは、

その人ひとの本来ほんらいもてるみほとけを見出みいだすことに

外ほかならず。

人ひとの心こころ、素直すなおに善意ぜんいに受うけ行ゆくとき、その人ひと

ならずば他にかえることできずという固い信
頼が生まれ、信頼は仕事を与えられる始めと
なり、仕事ある人に住所定まる。疑い深き人、
人に信頼されることなく、仕事を失い、やが
ては住むべき場所もなし。

土曜日「朝の言葉」

親切にする、親切は人を育てる。

親切は慈悲の心、慈悲はみほとけの心なり。

親切は信ずることより始まる。親切な考え、

親切な理解、親切な言葉、親切な行いなどは

みほとけの恵みあまねく広め行く尊きみわざ

にて、人の心を浄め行き、この世にみほとけ

のげんにましますことを信ぜせしめ、苦しみ

多き人の世に、真実の愛あることを知らしめ

る。人、人の心を信じ、この世に真実の愛あ

ること知るとき、生き行く強き力もち、われもみほとけの力そのままに、この世を浄め行かんと励むなり。

日曜日「朝の言葉」

あたたかき心を持ちて励み行く。

われら今日も生きてあり、万物を羽包み育て、

すべてを差別なく、善きも悪しきも等しく

照らしたまえる真言のみほとけに心からこの

身を献げたてまつる。われらこの身この生に

おいてみほとけの身とならんと願うがゆえに、

身と口と意とのうえに常にあたかき心もち

て励み行かん。

さればみほとけは問いたまう、よく十善の道

を守り、朝の言葉によりて生き行くや。

われら誓いたてまつる、良く生きる。

みほとけは説きたまえり、善いかな真のさ
とりを求めるものよ、つねにほろびぬものと
して、このみ教えを持つものは、いかなる障
りも打ちくだき、ほとけ菩薩のみ位も、すべ
ての悉地も得らるべし。

前讚 四智梵語

永久の薩埵に守られて平等性無尽の宝あり、教主の法、
はへだてなく救いの事業ぞ限りなし。

唵。縛日羅薩。怛縛蘇。羅賀。縛日羅羅怛曩

摩覩怛覽。縛日羅達。麼誡夜那縛日羅羯。磨

迦嚕婆縛

心略梵語

すべてに勝れしあこがれの真実の世界に在りまして、

救いのみ手をたれたまうその名は大日遍照尊、心を献
げ身を伏して、そのみ教えを保ち行く。

薩縛。尾也比。婆縛訖羅訖里也。素 多地鉢

帝。爾曩。怛頼。駄覩迦摩訶羅佐。尾嚕左曩

曩謨率覩帝

不動梵語

悪しき心を砕破する不動の利剣の神通力は、あまね

く衆生を済度して、おしえは永遠に輝かん。

曩莫。薩縛。没駄母地薩。怛縛南。薩縛怛羅。

僧虞素弥怛。鼻惹羅始吠。南謨素覩帝娑婆訶

理趣經 運命を転換し幸せを得る愛と富の經典

姿勢を正し身を潔め、理趣の經誦誦して、仏

の胸にいだかれて妙適なる力身に受けん。

善意になせど裏切られ、希望を持つも成就

せず、闇に迷える人たちが理趣の妙典の意を
体し、運命の波を乗り越えて、悪しき因縁浄
めゆく、まことの経ぞ栄えあれ。

(帰) 命毘盧遮那(仏) 無染。(無着眞理趣)

生生。(値遇無相教) 世世。(持誦不忘念)

弘法大師増法樂

大樂金剛不空眞実三摩耶經

(般若波羅蜜多理趣品 大興善寺三蔵沙門大広智不空奉詔役)

(序) 如是我聞。(付) 一時薄伽梵。成就殊勝一切如来。

金剛加持三摩耶智。已得一切如来灌頂宝冠為

三界主。已証一切如来。一切智智瑜伽自在。

能作一切如来。一切印平等種種事業。於無尽

無余一切衆生界。一切意願作業。皆悉圓滿。

常恒三世。一切時身語意業。金剛大毘盧遮那

じょうらい。さいよつつかいたかしてきてのうきゅうちゅう。いつせいじょうらい
如来。在於欲界他化自在天王宮中。一切如来
常所遊処吉祥称歎。大摩尼殿。種種間錯。鈴
鐸繪幡微風搖擊。珠曼瓔珞半滿月等而為莊嚴。

よはつしゅうくちほさつしゅうくち。そいい。きんこうしほさんばか
与八十俱胝菩薩衆俱。所謂。金剛手菩薩摩訶

さ。かんしさいほさんばか。きよこうほさんばか。きん
薩。觀自在菩薩摩訶薩。虚空蔵菩薩摩訶薩。金

こうけんほさんばか。ぶんじゆしりーさんばか。さいはつしん
剛拳菩薩摩訶薩。文殊師利菩薩摩訶薩。纒鬘心

てんほうりんほさんばか。きよこうちほさんばか。さいいつせい
轉法輪菩薩摩訶薩。虚空庫菩薩摩訶薩。催一切

まほさんばか。よーじよしとうたいほしゅう。きようけいじようじ
魔菩薩摩訶薩。与如是等大菩薩衆。恭敬圍繞而

いせつぼう。そちゅうこうせんぶんぎこうびよう。しゆんいちあんまんせいけつぱく
為說法。初中後善文義巧妙。純一円滿清淨潔白。

せいいち。せいいつえいほうせいせいくもん。そいい。ひやうてきせいせいくしほさんば
(正一) 説一切法清淨句門。所謂。妙適清淨句是菩薩

い。よくせんせいせいくしほさんばい。そくせいせいくしほさんばい
位。欲箭清淨句是菩薩位。触清淨句是菩薩位。

あいほくせいせいくしほさんばい。いつせいしさいしゅうせいせいくしほ
愛縛清淨句是菩薩位。一切自在主清淨句是菩

さいい。けんせいせいくしほさんばい。てきえつせいせいくしほさんば
薩位。見清淨句是菩薩位。適悅清淨句是菩薩

い。あいせいせいくしほさんばい。まんせいせいくしほさんばい
位。愛清淨句是菩薩位。慢清淨句是菩薩位。

莊嚴清淨句是菩薩位。意滋沢清淨句是菩薩位。

光明清淨句是菩薩位。身樂清淨句是菩薩位。

色清淨句是菩薩位。声清淨句是菩薩位。香清

淨句是菩薩位。味清淨句是菩薩位。何以故。

一切法自性清淨故。般若波羅蜜多清淨。金剛

手。若有聞此清淨出生句般若理趣。乃至菩提

道場。一切蓋障。及煩惱障法障業障。設広積

習。必不墮於地獄等趣。設作重罪消滅不難。

若能受持日日。誦誦作意思惟。即於現生証。

一切法平等金剛三摩地。於一切法皆得自在。

受於無量適悅歡喜。以十六大菩薩生。獲得如

來執金剛位。時薄伽梵。一切如來大乘現証三

摩耶。一切曼荼羅持金剛勝薩埵。於三界中調

伏無余。一切義成就金剛手菩薩摩訶薩。為欲

重顯明此義故。熙怡微笑左手作金剛慢印。右

手抽擲本初大金剛作勇進勢。説大楽金剛不空

三摩耶心。

金剛薩埵

(二)時薄伽梵毘盧遮那如来。(符)復説一切如来。寂靜

法性現等覺出生般若理趣。所謂金剛平等。

現等覺以大菩提金剛堅固故。義平等。現等覺

以大菩提一義利故。法平等。現等覺以大菩提

自性清淨故。一切業平等。現等覺以大菩提一

切分別。無分別性故。金剛手。若有聞此四出

生法誦誦受持。設使現行無量重罪。必能超越

一切惡趣。乃至当坐菩提道場。速能尅証無上

正覺。時薄伽梵如是説已。欲重顯明此義故。

照怡微笑持智拳印。説一切法自性平等心

大日如来

(三) 時調伏難調。積迦牟尼如來。(付) 復說一切法平等。

最勝出生般若理趣。所謂。欲無戲論性。故瞋無

戲論性。瞋無戲論性。故癡無戲論性。癡無戲論

性。故一切法無戲論性。一切法無戲論性。故。忘

知般若波羅蜜多無戲論性。金剛手。若有聞此理

趣受持。誦誦。設害三界一切有情。不墮惡趣。

為調伏故。疾証無上正等菩提。時金剛手大菩

薩。欲重顯明此義故。持降三世印。以蓮華面。

微笑而怒。頻眉猛視。利牙出現。住降伏立相。說

此金剛吽迦羅心

降三世

(四) (時) 薄伽梵。得自性清淨法性如來。(付) 復說一切法平

等。觀自在智印。出生般若理趣。所謂。世間一

切欲清淨故。即一切瞋清淨。世間一切垢。清

淨故。即一切罪清淨。世間一切法清淨故。即一

切有情清淨。世間一切智智清淨故。即般若波

羅蜜多清淨。金剛手。若有聞此理趣受持誦

作意思惟。設住諸欲猶如蓮華。不為客塵諸垢

所染。疾証無上正等菩提時薄伽梵。觀自在

大菩薩欲重顯明此義故。熙怡微笑。作開敷蓮

華勢觀欲不染。說一切群生。種種色心

觀音

(五)時薄伽梵一切三界主如來。(付)復說一切如來灌頂

智藏般若理趣。所謂。以灌頂施故能得三界法

王位。義利施故得一切意願滿足。以法施故得

圓滿。一切法。資生施故得身口意一切安樂。

時虛空藏大菩薩。欲重顯明此義故。熙怡微笑

以金剛寶鬘自繫其首。說一切灌頂。三摩耶宝心

虛空藏

(六)(時) 薄伽梵得一切如来智印如来。(付) 復説一切如来

智印加持般若理趣。所謂。持一切如来身印即

为一切如来身。持一切如来語印。即得一切如

来法。持一切如来心印。即証一切如来三摩地。

持一切如来金剛印。即成就一切如来身口意業

最勝悉地。金剛手。若有聞此理趣受持。誦誦

作意思惟。得一切自在。一切智智。一切事業。

一切成就。得一切身口意。金剛性一切悉地。

疾証無上。正等菩提。時薄伽梵。为欲重顯明

此義故。熙怡微笑。持金剛拳大三摩耶印。説

此一切堅固金剛印。悉地三摩耶自真実心

拳菩薩

(七)(時) 薄伽梵一切無戲論如来。(付) 復説轉字輪般若理

趣。所謂。諸法空与無自性相応故。諸法無相

与無相性相応故。諸法無願与無願性相応故。

諸法光明。般若波羅蜜多清淨故。時文殊師利

童真。欲重顯明此義故。熙怡微笑。以自劍揮

斫一切如来。以說此。般若波羅蜜多。最勝心

文殊

(八)時 薄伽梵一切如来入大輪如来。(付)復説入大輪般

若理趣。所謂。入金剛平等。則入一切如来法

輪。入義平等則入大菩薩輪。入一切法平等。

則入妙法輪。入一切業平等。則入一切事業輪。

時纔發心。轉法輪大菩薩。欲重顯明此義故。熙

怡微笑。轉金剛輪。説一切金剛三摩耶心

轉法輪

(九)時 薄伽梵一切如来種種供養藏。(付)廣大儀式如来。

復説一切供養。最勝出生般若理趣。所謂。發

菩提心。則為於諸如来廣大供養。救濟一切衆

生則為於諸如来廣大供養。受持妙典則為於諸

如来廣大供養。於般若波羅蜜多。受持誦誦自

書教他。書思惟修習種種供養。則為於諸如来

廣大供養。時虛空庫大菩薩。欲重顯明此義故。

熙怡微笑。說此一切事業。不空三摩耶一切金

剛心

虛空庫

(十) 薄伽梵能調持智拳如来。(付) 復說一切調伏智識

般若理趣。所謂一切有情。平等故忿怒平等。

一切有情調伏故忿怒調伏。一切有情法性故忿

怒法性。一切有情金剛性故忿怒金剛性。何以

故。一切有情調伏則為菩提。時摧一切魔大善

薩。欲重顯明此義故。熙怡微笑。以金剛藥叉

形持金剛牙。恐怖一切如来已。說金剛忿怒大

咲心

摧一切魔

(十二) (時) 薄伽梵一切平等建立如来。 (付) 復説一切法三摩

耶。最勝出生般若理趣。所謂一切平等性故。

般若波羅蜜多平等性。一切義利性故。般若波

羅蜜多義利性。一切法性故。般若波羅蜜多法

性。一切事業性故。般若波羅蜜多事業性。心知。

時金剛手。入一切如来菩薩。三摩耶加持三摩

地。説一切不空三摩耶心

普賢

(十二) (時) 薄伽梵如来。復説一切有情加持。 (付) 般若理趣。

所謂一切有情如来藏。以普賢菩薩一切我故。

一切有情金剛藏。以金剛藏灌頂故。一切有情

妙法藏。能轉一切語言故。一切有情羯磨藏。

能作所作性相応故。時外金剛部。欲重顯明此

義故。作歡喜聲。説金剛自在自真心

外金剛部

(十三) 爾時七母女天頂礼仏足。献鉤召撰入能殺能成。

三摩耶真心

七母女天

(十四) 爾時末度迦羅天三兄弟等。親礼仏足献自心真言

三兄弟

(十五) 爾時四姊妹。女天。献自心真言

四姊妹

(十六) 時薄伽梵無量無辺究竟如来。為欲加持此教令

究竟円満故。復説平等金剛出生般若理趣。所

謂般若波羅蜜多。無量故一切如来無量。般若

波羅蜜多。無辺故一切如来無辺。一切法一性

故。般若波羅蜜多一性。一切法究竟故。般若

波羅蜜多究竟。金剛手。若有聞此理趣。受持

誦誦。思惟其義。彼於仏菩薩行。皆得究竟

(十七) 時薄伽梵毘盧遮那。得一切秘密法性無戲論如

來。復說最勝無初中後。大樂金剛不空三摩耶。

金剛法性般若理趣。所謂。菩薩摩訶薩。大欲

最勝成就故。得大樂最勝成就。菩薩摩訶薩。

得大樂最勝成就故。則得一切如來大菩提最勝

成就。菩薩摩訶薩。得一切如來大菩提最勝成

就故。則得一切如來。摧大力魔最勝成就。菩

薩摩訶薩。得一切如來摧大力魔最勝成就故。

則得遍三界自在主成就。菩薩摩訶薩。得遍三

界自在主成就故。則得淨除無余界一切有情。

住著流轉。以大精進常。処生死。救摂一切利益

安樂最勝。究竟皆悉成就。何以故。

菩薩勝慧者 乃至尽生死 恒作衆生利

而不趣涅槃 般若及方便 智度悉加持

諸法及諸有 一切皆清淨 欲等調世間

令得淨除故 有頂及惡趣 調伏尽諸有

如蓮体本染 不為垢所染 諸欲性亦然

不染利群生 大欲得清淨 大安樂富饒

三界得自在 能作堅固利

金剛手。若有聞此本初般若理趣。 日日晨朝或

誦或聽。彼獲一切安樂悅意。 大樂金剛不空三

昧究竟悉地。現世獲得一切法自在悅樂。 以

十六大菩薩生。得於如來執金剛位

五秘密

(流通)爾時一切如來及持金剛菩薩摩訶薩。等皆來集

會。欲令此法不空無礙速成就故。咸共称讚金

ことうしゆげん
剛手言

善哉善哉大薩埵 善哉善哉大安樂

善哉善哉摩訶衍 善哉善哉大智慧

善能演說此法教 金剛修多羅加持

持此最勝教王者 一切諸魔不能壞

得仏菩薩最勝位 於諸悉地当不久

一切如来及菩薩 共作如是勝說已

為令持者悉成就 皆大歡喜信受行

(七) 毘盧遮那仏 (八) 毘盧遮那仏

(九) 毘盧遮那仏 (四) 毘盧遮那仏

(五) 毘盧遮那仏 (六) 毘盧遮那仏

(十) 毘盧遮那(仏) (十一) 毘盧遮那仏

我等(符)所修。(三昧善) 廻向。(最上大悉地)

哀愍。(摂受願海中) 消除。(業障証三昧)

天衆。(神祇増威光) 当所。(権現増法樂)

弘法。(大師)

(増法樂) 一切。(靈等成仏道)

本尊。(界会)

【過去。(聖靈成仏道) 般若。(理趣能引導)】

聖朝。(安穩増宝寿) 天下。(安樂興正法)

護持。(弟子除不祥) 滅罪。(生善成大願)

菩提。(行願不退転) 引導。(三有及法界)

同一性故入阿字

後讚 四智漢語

永久の薩埵の恵あり、金剛の宝あらわれて、放てし光

は輝きぬ、金剛の道ぞ栄あれ。

金剛薩埵。摂受故得為無上金剛宝金剛言詞歌

詠故願成金剛承仕業

心略漢語

すべてのものをはぐくみて、妙用の法を示したる教え

の大王遍照尊、常にわれらと共にあり。

一切善生主妙用体無礙三界如大王遍照我頂礼

仏讃

如来の徳は輝きて迷えるものを救い行き、全ての衆

生は守られて如来の光ひろめ行く。

摩訶迦嚕 拈建囊食。捨娑多藍。薩縛吠南。

本女那地。実那駄藍鉢。羅拏摩弭。但他擔

至心廻向

迷いに沈むわが心、仏の御手に導かれ、悟り

の岸におもむかん。三世に及ぶ宿世にて、自

らなせし行いが、在るべきところ作りゆく。

あやまち多きわが姿、仏の慈悲を乞い願ひ、

心めぐらし徳ひろめ、全ての人を廻向する。

懺悔随喜(付)勸請福 願我不失菩提心

諸仏菩薩妙衆中 常為善友不厭捨

離於八難生無難 宿命住智莊嚴身

遠離愚迷具悲智 悉能滿足波羅蜜

富樂豐饒生勝族 眷属広多恒熾盛

四無擬弁十自在 六通諸禪悉円満

如金剛幢及普賢 願讚廻向亦如是

歸命頂礼大悲毘慮遮那仏

舍利礼

釈迦牟尼の舍利の放てし万徳は、永遠に輝

く法界塔婆なり。あまねく照らす光明は、す

すべての暗やみをとり除のぞく。法おしえのめぐみ身に受うけて、

仏ほとけのすがた目めに浮うかべ、心こころ尽くして頂ちやうらい札す。

一心頂いつしんちやうらい札い。(付ま)万徳まんとく円満えんまん釈迦しやくかい如来にょらい。真身しんじん舍利しゃり。本

地じ法ほつ身しん。法界ほふかい塔婆とうぼ。我等が礼敬らいきやう。為い我が現身げんしん。入にゆ

我が我が入にゆ。仏ぶつ加か持じ故こ。我が証しやう菩ぼ提だい。以い仏ぶつ神じん力りき。利

益やく衆しゆ生じやう。発ほつ菩ぼ提だい心しん。修しゆ菩ぼ薩さつ行ぎやう。同どう入にゆ円寂えんじやく。平へい等とう

大智だいち。今こん将じやう頂ちやう札らい

苦くるしみ多おほき人ひと々びとのたために説ときたる

仏ぶつ説せつ摩ま訶か般はん若にや波は羅ら蜜みつ多た心しん經ぎやう と

妙みやう法ほつ蓮れん華げ經きやう觀かん世ぜ音おん菩ぼ薩さつ普ふ門もん品ぼん偈げ

觀かん音のんは人ひと々びとの苦くるしみを自みずからの苦くるしみとして救すく

い行ゆき、この世よの悩なやみ尽つきるまで尊とうとき事み業わざな

したまう。(付く)苦くるしみ悩なやむ人ひと々びとが、觀み音ほとけの大な慈さけに

すがりてその名な呼よび、御み姿すがたを拝はいし、心こころに念ねん

じて求るならば、常にわが身のうえにまし

まして、能くその苦しみを除きたまう。

人いまし現身を離れしとき観音の名を称えな

は、観音の速に顕れて生死を超えて蜜厳国土

に導きたまう。

いまは亡き人の菩提をとむらわんがために観

音の力を念ずれば供養これに勝れるなし。

病の床にありて観音の力を心に思うとき、

寿命尽きなば速やかに浄き土に引き取りた

まう。もし寿命ありてこの世になすべきこと

あらば、苦しみ少くなく病癒えん。

人その生を受けるとき、親観音の名を呼べば

自然の理そのままに、善き子を安けく授けた

まう。なおもその上おさなごを育てる日々の

朝夕に親観音の名を呼べば智恵愛敬を授けら

る。

無実の罪に泣く人が、観音の力を信ずるとき、
その苦しみを解脱せん。罪ある人が償うとき、

もし観音の名を呼べば償い易く導かれん。

愛する人に裏切られ、もだえ苦しむその人が

もし観音の御手にすがれば、人を憎むことも

なく、空しき愛憎消えさらん。

人生業の立ちがたく、多くの人に責められて

明日をも知れぬそのときに、もし観音の力を

念ずれば、生き行く力湧き出ずる。

苦しみ悩む多くの人よ、全てこの世のもの

わが力のままにならず、みほとけの心のまま

にあり、喜びも悲しみもそのままに素直に受

けとり、喜びあるときはみほとけと共に喜び

悲しみあるときはみほとけにすがり行くと

き、一切の苦しみ悩みを解脱することを得ん。

人、幸いならんと欲するならば、常に十善の道を歩み行き、すべての人々に十善の道を歩むべく知らしめ、この世の果てるまで浄め行き、われらとほとけと皆ともにみ仏の事業を成就せしめん。

観音の力は、すべての苦しみ悩みを悉く滅せしむ、われら常に観音を願い仰ぐべし、浄き光ありてすべての闇を破り、普く明らかにこの世を照らしたまう。

念じ、念じ、疑いを生ずることなかれ、観音の浄き力あまねく、人々の苦悩死厄を滅したまい、一切の功德を持ちて、慈悲深く人々の苦しみを救いたまう。

般若心経

般若心経は仏教の静粋、密教の肝心、人々

の生き行く力なり、朝夕思い推えれば、真言

の道たちまちに開け、現世の闇を除き、人

の生を明るく照らす燈火なり、信心のまこと

をつくして唱えたてまつる―

仏説摩訶般若波羅蜜多心經

〔付〕觀自在菩薩。行深般若波羅蜜多時。照見五蘊

皆空。度一切苦厄。舍利子。色不異空。空不

異色。色即是空。空即是色。受想行識。亦復

如是。舍利子。是諸法空相。不生不滅。不垢

不淨。不增不減。是故空中。無色無受想行識。

無眼耳鼻舌身意。無色声香味觸法。無眼界。

乃至無意識界。無無明。亦無無明尽。

乃至無老死。亦無老死尽。無苦集滅道。無知

亦無得。以無所得故。菩提薩垂。依般若波羅

蜜多故。心無罣礙。無罣礙故。無有恐怖。遠

離一切顛倒夢想。究竟涅槃。三世諸佛。依

般若波羅蜜多故。得阿耨多羅三藐三菩提。

故知般若波羅蜜多。是大神咒。是大明咒。是

無上咒。是無等等咒。能除一切苦。真實不虛。

故說般若波羅蜜多呪。即說呪曰。

羯諦羯諦 波羅羯諦。

波羅僧羯諦。菩提娑婆訶 般若心經

觀音經偈文

われら心から觀世音菩薩の名号を受持して、

苦海を渡らんと欲す。願わくは自愛の御手を

垂れたまい救い導きたまわんことを――

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品偈

世尊妙相具 我今重問彼 佛子何因緣

名為觀世音 具足妙相尊 偈答無尽意

汝聽觀音行 善心諸方所 弘誓深如海

歷劫不思議 侍多千億仏 發大清淨願

我為汝略説 聞名及見身 心念不空過

能滅諸有苦 假使興害意 推落大火坑

念彼觀音力 火坑變成池 或漂流巨海

竜魚諸鬼難 念彼觀音力 波浪不能没

或在須弥峯 為人所推墮 念彼觀音力

如日虚空住 或被惡人逐 墮落金剛山

念彼觀音力 不能損一毛 或值怨賊繞

各執刀加害 念彼觀音力 咸即起慈心

或遭王難苦 臨刑欲壽終 念彼觀音力

刀尋段段壞 或囚禁枷鎖 手足被杻械

念彼觀音力 釈然得解脫 呪詛諸毒藥

所欲害身者 念彼觀音力 還著於本人

或遇惡羅刹 毒龍諸鬼等 念彼觀音力

時トキ悉シツ不フ敢カン害ガイ 若ニヤク惡アク獸ベツ困クワン繞リョウ 利リ牙ガ爪ソウ可カ怖ホ

念ネン彼ビ觀カン音オン力リキ 疾シツ走ソウ無ム辺ヘン方ホウ 蚯ガン蛇ニヤ及キ蝮フ蝮ツ

氣ケ毒ドク煙エン火カ燃ネン 念ネン彼ビ觀カン音オン力リキ 尋ジン聲セイ自ジ回エイ去キ

雲ウン雷ライ鼓コ掣ゼツ電デン 降コウ雹ポク澍ジユ大ダイ雨ウ 念ネン彼ビ觀カン音オン力リキ

応オウ時ジ得トク消シヨウ散サン 衆シユ生セイ彼ヒ困コン厄ヤク 無ム量リヤウ苦ク逼ヒツ身シン

觀カン音オン妙ミョウ智チ力リキ 能ノウ救ク世セ間ケン苦ク 具グ足ソク神ジン通ツウ力リキ

広コウ修シユ智チ方ホウ便ベン 十ジツ方ホウ諸シヨ国コク土ト 無ム利リ不フ現ゲン身シン

種シユ種シユ諸シヨ惡アク趣シュ 地ヂ獄ゴク鬼キ畜チク生シヨウ 生シヨウ老ロウ病ビョウ死シ苦ク

以イ漸ゼン悉シツ令レイ滅メツ 真シン觀カン清シヨウ淨ジヨウ觀カン 広コウ大ダイ智チ慧エイ觀カン

悲ヒ觀カン及キ慈ジ觀カン 常ジヨウ願ガン常ジヨウ譚タン仰リョウ 無ム垢コウ清シヨウ淨ジヨウ光コウ

慧エイ日ニチ破パ諸シヨ闇アン 能ノウ伏ブツ災サイ風フウ火カ 普フ明メイ照シヨウ世セ間ケン

悲ヒ体タイ戒ケイ雷ライ震ジン 慈ジ意イ妙ミョウ大ダイ雲ウン 澍ジユ甘カン露ロ法ホフ雨ウ

滅メツ除ジヨ煩バン惱ノウ熾シ 諍ジヨウ訟ソウ經キョウ官カン処ショ 怖カウ畏エイ軍ジン陣チン中チュウ

念ネン彼ビ觀カン音オン力リキ 衆シユ怨オン悉シツ退タイ散サン 妙ミョウ音オン觀カン世セ間ケン

梵ボン音オン海カイ潮チヨウ音オン 勝シヨウ彼ヒ世セ間ケン音オン 是ゼ故コ須シユ常ジョウ念ネン

ねんねんもつしようぎ
念念勿生疑
かんぜーおんじょうしやう
觀世音淨聖
おーくのうしやく
於苦惱死厄

のらいきーえーこー
能為作依怙
ぐーいつさいくーぞく
具一切功德
じーげんじーしゆーじやう
慈眼視衆生

ふくじゆーかいむりりやう
福聚海無量
ぜーこーおうちやうらい
是故応頂礼

じーじーじーぼーさー
爾時持地菩薩
ぞくじゆうざーきー
即從座起
げんびやくみつこんぜーせん
前白仏言世尊
にやく
若

うーしゆーじやう
有衆生
もんぜーかんぜーおんぼーさーほん
聞是觀世音菩薩品
じざいしーごう
自在之業
ふーもん
普門

じーげんじんつりきしやー
示現神通力者
とうちーぜーにんくーぞくふーしやう
当知是人功德不少
ぶつせつぜーふ
仏說是普

もんぼんじー
門品時
しゆうちゆうはちまんしせんしゆじやう
衆中八萬四千衆生
かいほつむーどうどう
皆發無等等
あ
阿

のくたらさんみやくさんぼーだいしーん
耨多羅三藐三菩提心

せがきくようもん
施餓鬼供養門

さんき
三歸(三回)

なむじつぼうぶー
南無十方仏
なむじつぼうほう
南無十方法

なむじつぼうそう
南無十方僧
なむだいいひかんぜおんぼーさー
南無大悲觀世音菩薩

せじきげ
施食偈

じんしゆかじじやうおんじき
神呪加持淨飲食
ふせつうしやしきじん
普施恒沙衆鬼神

願海飽滿捨慳身がんかいぼうまんしゃけんしん 速脱幽冥生善道そくだつゆうみやうしょうぜんどう

帰依三宝發菩提きえさんぼうはつぼだい 究竟得成無上覺くきやうとくじやうむじやうかく

功德無辺尽未來くどくむへんじんみらい 一切衆生同飽食いっさいしゆじやうじゆうぼうじ

加持飲食印(三回)かじおんじきものいん

のうまく さらば たたぎやた ばろきいてい
おんさんばら さんばら うん

甘露法味印(三回)かんろほうみのいん

のうまく そろはや たたぎやたや たにやた
おんそろそろ はらそろ はらそろ そわか

水輪觀(三回)すいりんかん

のうまく さまんだ ぼだなんばん

写食(三回)しゃじき 五如来名号

南無過去宝勝如来除慳貪業福智円満なむかこほうしやうにょらいじよけんどんごうみくちえんまん

南無妙色身如来破醜陋形円満相好なむみやうしきしんにょらいはしゆるきまうえんまんそうごう

南無甘露王如来灌法身心令受快樂なむかんろおうにょらいかんぼつしんじんりまうじゆけつらく

南無広博身如来咽喉広大飲食受用なむこうぼくしんにょらいんこうだいおんじきじゆじゆ

南無離怖畏如来恐怖悉除離餓鬼趣

発菩提心(二回)

おん ぼうぢしつた ぼだはだやみ

三昧耶戒(二回)

おん さんまや さとばん

光明真言(二回)

おん あほきや べいろしゃのう まかぼだら
まに はんどま じんばら はらばりたや うん

般若心経(百頁にあります)

諸真言

利剣不動明王真言

われら今、利剣不動明王のご加護を信じ、よ

こしまな心を断つことを願いて、唱えたま
つる。

のうまくさまんだ ばざらだん せんだ
まかろしゃだ そわたや うんたらた か

んまん

子安観世音菩薩真言

子供を思う親心をかなえ、よき子を育て導

きたまう子安観世音菩薩に、報恩の真言を献

げて唱えたてまつる。

おん ありきや そわか

日切地藏菩薩真言

いたわり、慈しみを成就するために、その願

いをかなえせしめ、一切の罪障を浄められん

ことを。

おん かかかび さんまえい そわか

釈迦如来真言

仏教の教主釈迦牟尼如来に報恩のまことを

ささげ、御徳を讃えたてまつる。

のうまくさまだ ぼだなん ばく

萬倍稲荷真言

世のため人のために尽くせし者に無量の福德、
智慧を授けたまわらんことを念じて唱えたとて
まつる。

まんばい（七遍ないし二十一遍お唱えします）

光明真言

そもそも、われら生きとし生けるもの、生ま
れながらにして、みほとけの心を持てり。（付さ

れどあさましき欲望に身をこがし、われ本よ
りほとけなるを知らず、遠くみほとけを求め

て、永遠に生死の苦海をさまよう。

生きとし生けるもの、ありとあらゆるものを
あまねく照らし、羽包み育てる真言の教主

大日如来は一切のみほとけの根本にして、わ
れら衆生のみ親なり。光明真言はこの大日

如来の御真言にして、一切の苦悩を解脱せし

める。

初めに**おん**と唱えるは、一切のみほとけに身

と心の誠をつくして信じたてまつることをお

誓いし、香華燈明飲食を供養したてまつる。

あぼきやは不空と訳したてまつる。みほとけ

の自ら悟り、世のすべての迷えるものを導き

たまう徳は広大無辺にして空しからず。

べいろしやのうは毘盧遮那にして光明遍照と

訳し、大日如来の常恒説法の徳を表す、一切

のみほとけの光明あわせたり。

まかぼだらは訳して大印という、生仏同体を

表す。光明真言をとなうる人の悪しき病を救い

たまうはこの真言の力なり。世の人の苦しみ

悩みを除く大いなる働きあり。

まにはこの世とやがて往く世の幸いを意のま

まになさしめる如意宝珠のことにして、大日

如来にょらいの福德ふくとくを円満えんまんせしめん誓ちかいを表あらわすなり。

はんどまは西方さいほう浄土じょうど阿弥陀如来あみだにょらいの心中しんちゅう秘密ひみつじゆ呪

にして、世よの人々ひとびとのすべての罪つみと過とがを消けし、

人本来ひとほんらいそなえ持もつみほとけの心こころを開ひらかせしめ

て浄きよき土つちに導みちびきたまうなり。

じんばらは光明こうみやうにして一切いっさい世間せけんの闇やみを照てらし

行く釈迦如来しゃかにょらいの徳とくを表あらわす。

はらばりたやは苦くるしみを転てんじて悟さとりを開ひらかし

める働はたらきあり、かくて世よの人々ひとびとは多おほくの汚よごれ

を捨すて去さりて浄きよき人々ひとびととなり、すべての三さん世せ

を浄きよめ行く。

終わりのうん字じは地獄じごくを破やぶりて浄土じょうどとなす大だい

力りきを有ゆうし、恐怖きょうふを除のぞきて幸さいわいを与あたえる功德くどくそ

なえり。世よの人々ひとびとの悟さとりを求もとめる心こころを守まもり、

迷まよいと災わざわいを除のぞいて、みほとけならんと欲ほつす

る願ねがいを満みたす力ちからあり。善よきかな、光こう明みょう真しん言ごんと
ともに生いき行ゆくものよ。

されば、罪つみがか深く業ごうごも重ひき人ひとといえども、この光こう

明みょう真しん言ごんの功く徳とくを信しんじて唱となえるときは、大だい日にち

如に来よのすぐれし智ち恵えの光こう明みょうに清きめられ、一いっ切さい

の罪ざい障しょうを消しょう滅めつし、福ふく徳とく智ち恵え増まして、わが世よた

のしく生いきることを得うべし。

特とくに今いまは亡なき人ひと々びとの菩ぼ提だいをとむらわんがため

に光こう明みょう真しん言ごんを唱となうるならば、必かならず無む量りょう寿じゆ如に来よ

が表あらわれて極ごく楽らく浄じやう土どに導みちきたまう。

光こう明みょう真しん言ごん

おん あぼきや べいろしゃのう まかぼ
だら まに はんどま じんばら はらば
りたや うん

御ご宝ほう号ごう

苦くるしみ悩なやむ人ひと々びとを、永とこ遠しえに導みちきたまわんと、

あつき慈悲の心にて、救いの御手を垂れたま
う高祖大師に、報恩の真言をささげて御宝号
を念誦す。

南無と唱えるそのときに、われみほとけにひ
れ伏して、大師に誠を献げたてまつる。

遍照金剛と唱えるそのときに、大師を一切
衆生のみ親なる大日如来とあがめたてまつ
る。

われらいま、南無大師遍照金剛のみ名を讃え
てみ教えをささげたてまつり、善き人として

蜜嚴国土を創らんと願うなり―

南無大師遍照金剛

廻向

いまここに、浄き人々が寄りて、(舟)みほとけの
御前を莊嚴し、聖典を誦誦して、ただただみ

ほとけの恩徳を讃えてたてまつり、み教えのま
ことに帰順したてまつる。

われ今日よりのち、十善の教えをわが心とし
真言の道を歩み行くことを誓うものなり。

願わくはこの善き行いによって生ずるところ
のすべての功德をもって、今は亡き人々の精

霊に追善廻向し、

世の人々の苦しみをわが心として、みほとけ
の如く救い行き、われらみなともどもにみほ
とけの道を成しとげて、浄き土を創り往かん。

願以此功德 普及於一切

我等与衆生 皆共成仏道

幸せになるためには現在のはあなたから出発しなさい。

現在のあなたの心をよく見つめ、良い心と悪い心を知り

なさい、とかく悪い心が起きがちなものですが、行動に表してはいけません。悪い自分を知るとき、良心が生まれます。いたわり、いつくしみ、思いやり、相手の立場になつて考える。大慈悲を自分の根本として、人生を精いっぱい表現してください。善意に受けとるとき、あなたは安心して住める家と、なすべき仕事を得ることができます。どうぞ過去を語らないでください、他人を傷つけるだけでなく、あなたも傷つきます。明日へ向かつて一緒に歩いていきましょう。

経典を暗記するほどに読むことは良いことです、しかし経典を持たずして唱和することを固く禁じます。どのように頭の良い人でも経典を持って目で見て読まないで、何かのときに今どこを読んでいるかわからなくなったり、途中を飛ばして読むことがあります。

経典を暗記していると誇ることは無意味なことです。

常に經典を見て、よく考えて、意を体して、日常の行動に、この經典を血となし、肉とすることが大切なのです。そのためには常に、經典を見て声に出して読む習慣を身につけてください。

観音院の故事来歴

観音院開基は慶長六年（一六〇一）辛丑七月一日・増香上人、土地の庄屋である田頭新蔵が慶長一六年（一六一一）堂宇を寄進して以来、この辺りを観音村と言うようになった。観音院は観音町発祥の地である。

観音院の歴代住職は開基増香―二世隆誉―三世堯也―四世増印―五世増智―六世成真―七世空然―八世快道―九世本源―一〇世栄隆―一一世増栄―一二世琳光―一三世寛明―一四世恵俊―一五世勸裕、一六世現寛恵住職に至る。

昭和二〇年八月六日原爆にて梁六間桁六間び瓦棒葺総檺造り漆塗りの本堂、鐘楼門、一切経蔵、庫裏客殿など一切が灰塵に帰す。

観音院の山号は合格物致知山と称する。略して合格山と言うほうが縁起が良い。

合法とは仏法にかなうことで、この場合は法令または規範にかなうことを意味しない。

格物とは物事をただすと読み、心の良知を發揮して事柄のあり方をただすことである。

致知とは後天的知を拡充して事故及びあらゆる事物に

内在する個別の理を窮め、究極的に宇宙普遍の理に達することを目指す。

この山号は広島で一番長い山号として知られている。永徳寺という寺号は、弘化二年（一八四五）に出版された広島城下絵図に見える、由緒はつまびらかでないが仏徳を永く保つ寺という意味である。

昭和五二年七月一八日勸裕第一五世住職普山。運営と財務を公開し、よく拝みよく相談に乗る寺として評判になり、檀信徒数が数十倍に激増した。

戦後仮復興した本堂・庫裏が狭隘となり、五四年八月全面建て替え工事に着工、五五年七月一日本堂・靈廟・持仏堂・参籠堂・地藏堂・客殿・事務所・庫裏・車庫など、頑丈な鉄筋コンクリート造り銅版葺き冷暖房完備の近代的寺院として落慶。内陣荘厳仏具新調などで総費用四億五千万円を要した。

この費用について、当時の壇信徒総代宮本元・和田俊行・田中輝夫、平井道夫各位を始めとして一万人を超える人々から浄財が寄せられた。

同時に駆け込み寺として、境内とは別に一時的に女性を保護できる冷暖房完備の無料施設を用意している。

昭和六二年一二月六日、観音院を中興した勸裕住職は拝むことと壇信徒の相談に専念するために住職の職を譲られた。満五二歳のことである。現在は通称「鈴之僧正」として尊信されている。

同日、後を継いで寛惠大一六世観音院住職普山式並びに普山披露宴を執行。

観音院は電算化のもつとも進んだ寺院として知られ、寺内は七台の端末を有する電算機で管理されていて、別に八台の文章作成機が機能的に稼働していて毎月二四頁

の総カラー版月刊誌「観自在」を電算編集し発行している。
法要は年中無休で、毎日午前十時、正午一二時、午後
二時の三回執行されている。

平成二年六月二二日現在

基本財産	二五八、四三〇、四〇五円
特別財産	九九、三〇六、八〇五円
普通財産	二五八、八二四、九二九円
基金合計	六一六、五六二、一三九円

宗教業務用に乗用車三台、ワゴン車一台、サンスクリ
ット語で蓮華を意味する汽船「パドマ」一隻を所有して
いる。これらにはそれぞれ電話が付けられている。

寺の方針として無借金に徹していて、物品の購入はす
べて現金であり、買掛けすることはない。

代表的な専従者は

長老 融通無碍

代表役員 住職 高田 寛恵

住職付 副住職 高田 華照

監事 井藤

監事 野中

専従者外の役員などは

教師総代七名 教師五〇名

責任役員九名 監事三名

評議員五〇名の構成である。

観音院は世襲制を廃止していて次の住職は壇信徒中か
ら公募して勉強せしめ住職とする。専従者の三親等以内
の親族役員・一事業所一組織からの重複した役員は三分

の一を超えて就任できない内規を持ち、また公職選挙に立候補を表明した人または当選した人の役員就任を禁止している。

■観音院の大経蔵■

お釈迦さまの教えを漏らさず納めた経典は僧侶を生み出す母胎であり、観音院は地方では珍しく充実した経典類を蔵し、僧侶のみならず、大学の先生や専門家なども閲覧に来られる。

大正新脩大蔵経・南伝大蔵経・大日本統蔵経・大日本仏教全書・国訳大蔵経・昭和新纂国訳大蔵経・国訳一切経・ウパニシャット全書・国訳秘密儀軌・大般若経・真言宗全書・続真言宗全書・禅の語録・講座仏教・日本仏教基礎講座・大乘仏典・真宗聖教全書・教行信証講義・望月仏教大辞典・中村元仏教語大辞典・密教大辞典・真宗大辞典などを始めとして、膨大な経典・専門書籍・辞典などを大切に保管、かつ書架に並べて実用できるように配置して勉強に役立つよう工夫してある。このうち大般若経六〇〇巻一对赤紺一、二〇〇巻は転読法要で拝まれることが主たる目的である。

これらの経典書籍を調度するにつけては、児玉忠男・吉田明文・三好俊之・岡村忠各位を筆頭として五百有余名の方々によって多額の浄財が寄せられている。

この浄財を基にして今後も経典書籍の充実に努め、僧侶を養成し維持して行きたい。そのことが仏教興隆に直接寄与できることであり、施主のご意向に永代にそうにとにもなるからである。経典書籍の奥付きに施主の氏名と喜捨の願意を記入して、一巻一冊の不明も無きよう大

切に大切に維持していきたい。

■観音院の仏さま■

本尊は大日如来で真言宗の根本を代表するみ仏さまで宇宙の中心を表しています。

本尊右の子安観音は子供を思う親心を叶えてくださる。お姿は子供がまさに誕生せんとするを観音さまが抱き上げられたところであり、子供の欲しい人、安産を願う人、子供の無事成長を願う人々にとって靈験があらたかである。

左右の日光・月光両菩薩は長老さま一代二作の立像で長老さまの優しい心が慈顔に表出されています。

向かって本尊左に立たれるみ仏は利剣不動明王で先代住職靈夢に感得せしお姿で剣を振りかざしておられる。今治の船舶艀装業を営まれる矢野繁雄氏が奉納された。迷える凡夫の煩惱を断ち、交通安全・航海安全、最近では航空安全を願われる人が多い。

向かって本尊右余間に座っておられるのが厄除け大師さまで、もとは中国大連市で多くの日本人信仰を集め、厄除けのお働きがあるときは首のあたりに汗をかかれることから汗かき大師とも言われる、篤信尼が納められしみ仏で素晴らしい靈験がある。

内持仏には宇賀神（うがじん）と、歓喜天（かんきてん）が丁重にまつられている。

宇賀神は弘法大師江ノ島弁財天修法中、海中より得たものと広島市史に見える。福の神として知られる。

歓喜天は空然が明和元年甲申（一七六四）に勧請したものである。夫婦和合、家庭円満、商売繁盛の靈験があらたかである。浴油供（よくゆく）という修法が行われるが、観音院唯一非公開の儀式である。

三階内持仏の宮に納められた二尺の立派な正観世音菩

薩木造は昭和二二年、田頭家一統の奉納による。子孫の江田島町幸之浦一統の方々も奉納されたものである。

山門右の水かけ地藏さまは祇園町の医家山口敏美氏の奉納されたみ仏で、日を限って参拝するならば願望を成就できることから日切地藏（ひぎりじぞう）と言われる。

山門左の大日堂の本尊薬師如来は万倍稻荷さまの本地仏である。左右の阿弥陀如来座像・阿修羅像は松久叢琳

仏師の作で昭和の国宝的存在になり得る。左右一八体の大日如来像は壯観である。

観音院本堂入り口左の赤いお社が有名な萬倍（まんばい）さまで、世のため人のために願うならば、福・徳・知恵を萬倍にしてくださいと大変な人気がある。

他に三百点を超える貴重な仏像、仏画、曼荼羅などを所蔵している。法衣も一〇名の僧侶が金襴の袈裟を付けて法要に参加できるよう、夏用と冬用が用意してある。